

今後の対応方針

対応方針

自動運転技術の向上

技術提携企業など

走行環境の整備

技術提携企業

- ・自動運転車両の接近を知らせる電光掲示
- ・安全な乗降、追い越しを考慮したバス停の整備
- ・インフラ協調のAIカメラの検知範囲の拡大
- ・信号協調技術との併用

- ・街の形が変わった場合の3Dマップ更新
- ・利便性の高いオンライン予約の導入検討

社会受容性の向上

市民・利用者

- ・長期間継続した運行による乗車機会の増加
- ・長期間継続した運行や啓発の実施により、低速走行の許容や路上駐車抑制などへの理解を深める

ビジネスモデルの構築

交通事業者など

交通事業者、技術提携企業・大学、行政、スポンサー企業が一体となった体制を構築

これまでの取り組みを検証し

長期間継続した運行により、課題を検証・解決しながら、本格的な実装に繋げる

「自動運転バスがいつも走っているまち」を目指す

自動運転の導入効果

スマートシティの推進

- ・誰もが気軽に出かけられる移動手段を確保し、「健幸都市ぎふ」を実現
- ・中心市街地や川原町などの観光地を周遊し、出かけたくなるまちを創出

DXの推進 ~全国トップランナーとしてけん引~

- ・新技術の実装など、自動運転に関する全国トップランナーとしての取り組みにより、国が目指す無人自動運転移動サービスの実現をけん引

国の目標 「2025年度：50箇所」「2027年度：100箇所」で無人自動運転を実現

日本初

中心市街地での自動運転実現を目指す

持続可能な公共交通ネットワークの構築

- ・公共交通の魅力向上、運転手不足への対応等により、市民の生活に必要な公共交通を将来にわたって維持
- ・中心市街地での走行で培った技術やノウハウの郊外部等への横展開
- ・先進技術の実装による新たな公共交通システムの形を岐阜市から発信

シビックプライドの醸成

- ・「自動運転バスがいつも走っているまち」として都市の魅力が向上
- ・未来を担う岐阜市の子どもたちに先進技術に触れる機会を創出

まちづくり、観光・経済の活性化

- ・センターゾーンの回遊性を高め「にぎわいと活気を創出」
- ・観光施設等とのタイアップなど「新たなツーリズムの構築」
- ・先進企業及び、各大学や岐大など産官学の連携による「技術の開発や新たな産業の創出」

環境負荷の軽減、安全性の向上

- ・EVバス導入による「温室効果ガスの削減」
- ・センサーなど安全装置の活用や、低速走行により周辺車両の速度を抑制する効果など、「安全性の向上」